

Igor Petrushevski イゴール・ペトルシェフスキー Violin

Igor Petrushevski は、ヨーロッパを代表するヴァイオリン教授の一人として広く認められている。彼の門下生は、チャイコフスキー国際コンクール、パガニーニ国際コンクール、ロン＝ティボー国際コンクール、ティボー・ヴァルガ国際コンクール、ロドルフォ・リピツァー国際コンクール、インディアナポリス国際ヴァイオリンコンクール、東京国際音楽コンクール、ヴィエニャフスキ国際コンクール、ケルン国際コンクール、ハイフェッツ国際コンクール、シオン国際コンクール、ポスタッキーニ国際コンクール、ヨアヒム国際コンクール、ブリテン国際コンクール、カネティ国際コンクール、エネスク国際コンクール、ヴァルセリア国際コンクール、ハチャトゥリアン国際コンクールなど数多くの国際コンクールで優勝・入賞を果たしている。また、彼らはマキシム・ヴェンゲーロフ、クシシュトフ・ペンドレツキ、ウラディーミル・ユロフスキ、クリスティアン・ヤルヴィ、シュロモ・ミンツ、ミッシャ・マイスキーら著名な音楽家と共演している。

彼は現在、ウィーンのリヒャルト・ワーグナー音楽院の教授を務めるほか、エレバン国立音楽院およびイポリトフ＝イワノフ音楽院の名誉教授である。また、15 年間にわたりロンドン王立音楽院で教鞭を執り、同院でも最大規模のクラスを担当するとともに、門下生たちは数多くの国際コンクールで受賞している。

これまで世界各地で数多くのラジオ・テレビ出演を行い、過去 20 年以上にわたり、イタリア、フランス、オーストリア、イギリス、旧ユーゴスラビア諸国、ロシア（モスクワ音楽院）、スペイン（ソフィア王妃音楽院）、北米・南米、中国（北京中央音楽学院）、日本、韓国などでマスタークラスや演奏活動を行っている。

また、イタリア、イギリス、モンテネグロ、オーストリア、韓国、アメリカで開催される音楽祭のアーティスト・イン・レジデンスを務め、ソロ・ヴァイオリンおよび室内楽のマスタークラスを定期的に開催している。

現在および過去の門下生の中には、アメリカ、ロシア、イギリスの主要オーケストラでコンサートマスターや首席奏者を務める者や、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・オペラ・ハウス（コヴェント・ガーデン）管弦楽団など世界有数のオーケストラで活躍する者もあり、国際的なソリストとして成功を収めたり、世界各国の大学で教授職に就いている。

彼は「ウィーン国際アカデミー」の芸術監督も務めており、その生涯と教育活動を紹介するドキュメンタリー映画は 20 か国以上で放映された。

さらに、サンタンデル音楽祭、モーツァルトウム夏季アカデミー、ベートーヴェン・イースター音楽祭、エネスク音楽祭、アレグロ・ヴィーヴォ音楽祭など、数多くの著名な音楽祭で活動している。

2019 年には、オーストリア最大級の賞金総額を誇るウィーン・クラシック弦楽コンクール & フェスティバル」の審査員および芸術監督を務め、2019 年および 2021 年シーズンには、ジョルジュ・エネスク国際ヴァイオリンコンクール、大阪国際音楽コンクール、アラム・ハチャトゥリアン国際ヴァイオリンコンクールの審査員として招かれている。

現在は「ラヴァネリウス・ストラディヴァリ国際ヴァイオリンコンクール」の芸術監督を務めており、この国際コンクールではグランプリ受賞者にアントニオ・ストラディヴァリ製ヴァイオリンが授与されることで知られている。